

快適な住まい方と衣服の手入れに関する研究

―小学生の家庭生活にみる掃除と洗濯実践例―

Comfortable Living and the Care of Clothing: A Case Study of House Cleaning and Laundering in the Family Life of Primary School Children

千森 督子 嘉本 知子 東口 依未

Tokuko Chimori Tomoko Kamoto Emi Higashiguch

要 約

児童の生活実態把握を目的とし、本稿では、家庭生活における掃除と洗濯の実行状況の検討を試みた。その結果、掃除は大部分が実行しており、場所は学習している部屋が主で、次が学習机周囲である。学習している部屋の清掃状況に関しては大部分が肯定している。自分の場所以外では風呂の掃除を行っている。掃除担当のある児童は少なく、担当場所は主に家族が共に使う所である。特に半数が風呂に割り当てられている。担当がある場合は、「小学3・4年」、次いで、「小学1・2年」と比較的低学年で開始されている。掃除方法は、母から教わった児童が約半数を占め、父、祖母、教師の順である。一方、洗濯は、「小学5・6年」でも経験の無い児童が3割いる。洗濯を経験したのは、「小学3・4年」が最も多い。洗濯物は、衣服と靴下、次いで、靴、ハンカチ、下着である。自分の洗濯物を畳み、収納するといった管理は、ほぼ実行している。

はじめに

現行の小学校の学習指導要領(家庭科)では「快適な衣服と住まい」の領域で、身近な住空間の掃除に関して学習することが取り上げられている¹⁾。また、同じく「快適な衣服と住まい」の領域では、日常着の手入れの必要性を理解し、ボタン付けや洗濯が出来ることとされている²⁾。

家庭科の学習内容は実践的・体験的なものも多く、家庭生活中で実践できるように繋いでいく必要がある。快適な住まい方実現においても、学校生活の体験や授業内の学習を家庭でも実践していく必要がある。特に重要な家事とされる掃除や洗濯を実行することは大切なことである。

そこで、本稿では、掃除と洗濯を児童が家庭で実際にどの程度行っているのかを明らかにし、児童の生活実態の一端を把握することを目的とする。

方法

研究方法は、選択肢を主とした質問紙法を用い、その調査結果を考察する手法をとる。

対象は、家庭科学習学年の小学5年生と6年生とし、和歌山県でも紀の川中流域の伝統的な農村地域に位置する、紀の川市立粉河小学校の児童である。

有効回収率は、5年生 97.9% (在学生 48 名中 47 名)、6年生 100% (在学生 43 名中 43 名)、合計 98.9% (在学生 91 名中 90 名) である。

調査年月日は、平成 29 年 11 月 30 日である。

結果及び考察

I 家庭での掃除について

1. 学習している部屋の掃除状況

住まいの中でも学習している部屋は、児童にとって一番身近な生活環境である。その部屋がきれいに掃除され、清潔に保たれているかどうかは、快適な生活と直結する。

学習している部屋の清掃状況に関して、60.0%が「できている」と回答している。「時々できている」を含めると9割が肯定している。反対に、「できていない」は8.9%しかない(図1)。

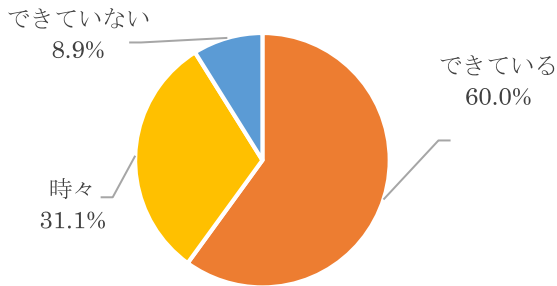


図1 学習している部屋の掃除状況

学年別に考察すると、「できている」と感じているのは、5年生では48.9%と半数に及ばないが、6年生では72.1%みられる。そのために、6年生の方が2割以上掃除状況を高く評価している(図2)。

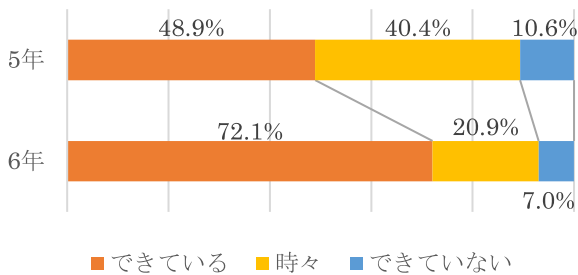


図2 学習している部屋の掃除状況(学年別)

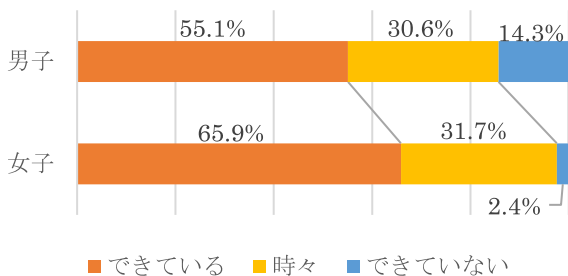


図3 学習している部屋の掃除状況(男女別)

男子と女子では感じ方が異なると考えられるので、男女別に考察すると、「掃除ができている」と感じているのは、男子が55.1%に対して、女子は65.9%ある。そのために、女子の方がやや評価が高い結果が得られた(図3)。

2. 掃除の実行

児童の家庭での掃除状況に関して、「掃除している」の回答は52.2%あり過半数を占め、「時々掃除している」(43.3%)を入れると9割以上が掃除をしていることになる。「掃除していない」はわずか3.3%と少数である(図4)。

これらから、小学校高学年では多くの児童が家庭でも掃除を実行していることがわかる。

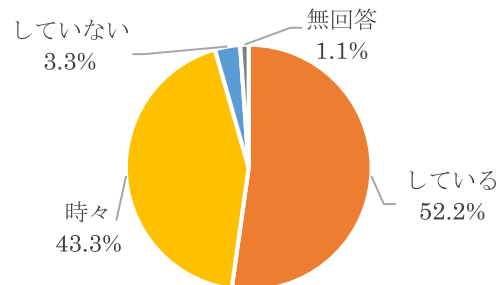


図4 掃除の実行

学年別に考察すると、「掃除している」のは5年生では36.2%であるに対して、6年生は69.8%と約2倍あり、「時々掃除している」(30.2%)を含めると全員がしていることとなる。一方、5年生は「時々掃除している」(55.3%)が最も多く、「掃除していない」のが6.4%ある。全体的に6年生と5年生では掃除の実行状況が異なる(図5)。

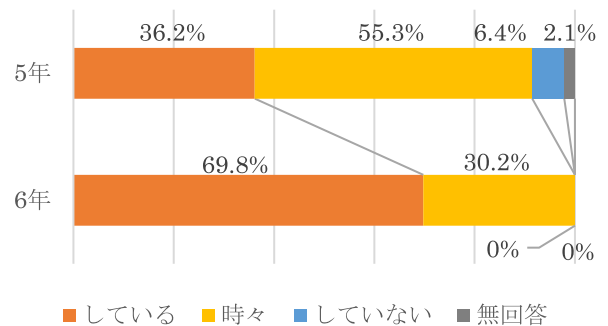


図5 掃除の実行(学年別)

男女別にみると、男子は「掃除している」が 46.9%と半数以下に対して、女子は 61.0%と半数を超えている。一方、男子は「時々掃除している」が 46.9%で「掃除している」と同じ割合であり女子より多いが、概して女子の方が掃除をしている(図6)。

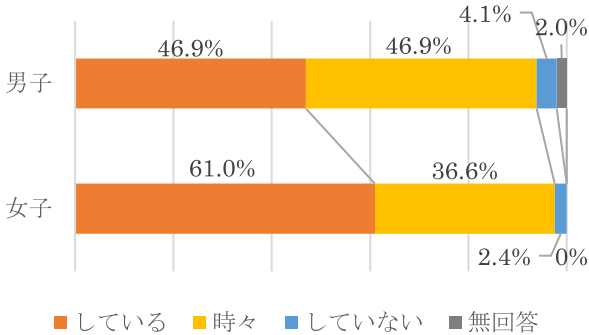


図6 掃除の実行(男女別)

3. 掃除の場所

掃除の具体的な場所は、「自分の部屋」が 27.6%で最も多く、次に範囲がやや狭まり、「学習机周囲」(24.7%)であり、この2場所で過半数を占める。他方、「風呂」は 17.2%あり、自分の場所以外では最も多い。その他では、「居間」(8%)、「玄関」(7.5%)、「便所」(5.2%)、「台所」(4.6%)、「庭」(2.3%)の順である(図7)。

学習指導要領でも家族の生活に進んで関わることが取り上げられているが³⁾、掃除では実行されている。

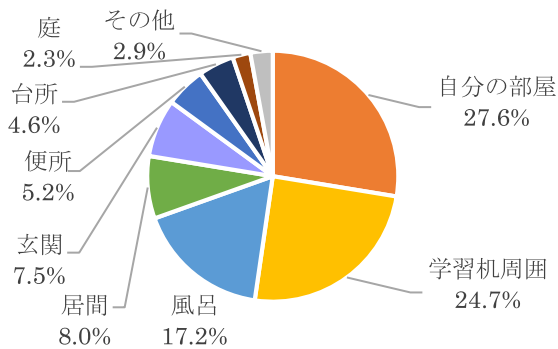


図7 掃除している場所

4. 掃除の担当

(1) 担当の有無

家庭での掃除担当の有無に関しては、「ない」が 77.8%と大部分を占めている。小学生に掃除担当場所を割り当てている家庭は約2割と少ない結果が得られた(図8)。

日々の生活の中で掃除の必要な場所をその都度決めて掃除するのと、あらかじめ家族で掃除分担を決めておき掃除するのでは、教育効果も異なる。前者は判断力や主体性が身に付き、後者は習慣化しやすく、責任感も生まれると考えられる。

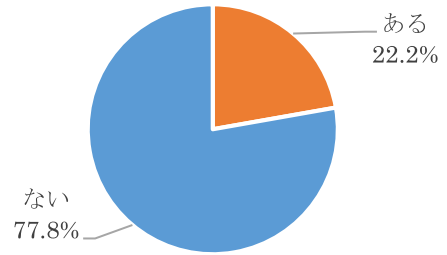


図8 掃除担当有無

学年別に掃除担当の有無を考察すると、「ある」が5年生では 14.9%に対して、6年生は 30.2%で2倍みられる(図9)。

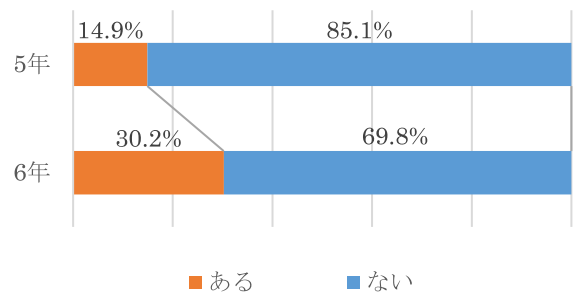


図9 掃除担当有無(学年別)

男女別に掃除担当の有無を考察すると、男子の方がわずかに多いものの、ほぼ同じ割合である(図10)。

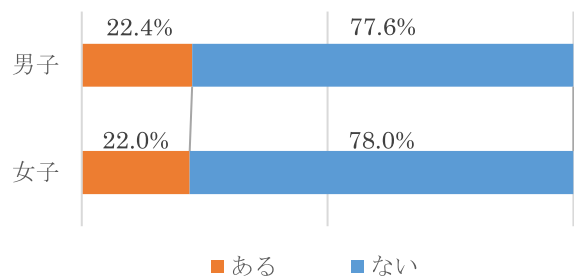


図10 掃除担当有無(男女別)

(2) 担当場所

担当場所が有る場合は、「風呂」が 42.9%と最も多く、次いで「居間」(14.3%)である。少数ではあるが、「玄関」(7.1%)、「廊下」(7.1%)、「自室」(7.1%)、「台所」(3.6%)、「階段」(3.6%)、「2階全体」(3.6%)、「学習机」(3.6%)、「水槽」(3.6%)と続く(図11)。

その結果、小学生に任せている掃除場所は、本人が主に使う自室や学習机よりも家族が共通に使う場所に偏り、特に日々

掃除が必要な風呂が割り当てられている。

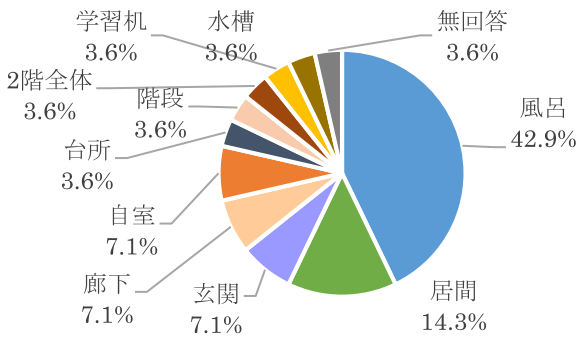


図 11 掃除担当場所

その他には、「誰にも教わらず自分で考えて掃除した」との回答もみられる(図 13)。

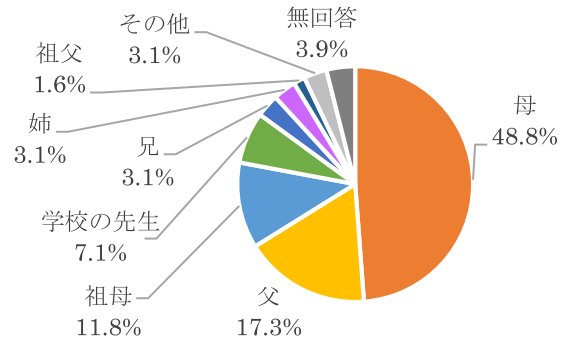


図 13 掃除方法の伝授者

(3) 担当開始年代

掃除担当が開始された年代は、「小学3・4年」が 40.0%で最も多く、次いで「小学1・2年」(26.7%)であり、「小学校以前」も 18.9%みられる。一方、「小学5・6年」は 8.9%と少ない。

総じて、掃除担当が割り当てられている場合は、主に小学校中学年以下で開始されている(図 12)。

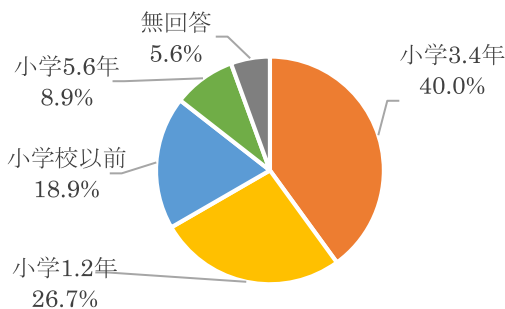


図 12 掃除担当開始時期

II. 家庭での洗濯について

1. 洗濯経験の有無

家庭で洗濯した経験が有るのは 67.8%と過半数を占め、無いのは 31.1%とその半分である(図 14)。その結果、「小学5・6年」でも洗濯経験の無い児童が3割いることが把握された。

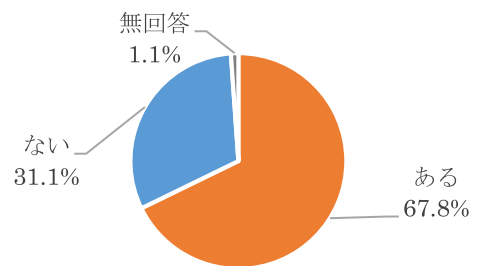


図 14 洗濯経験有無

5. 掃除方法を習った人

掃除の方法を教えてもらった人は、母が 48.8%と約半数を占め最も多く、次いで、父(17.3%)、祖母(11.8%)の順である。さらに、家族では、兄(3.1%)、姉(3.1%)の順となる。教師は 7.1%と比較的少ない。

掃除は日常生活の基本であり、幼児期から家庭教育の一環として取り入れている家庭もある。家庭教育の担い手の大半が母親であることから、母とする回答が多いと推測される。学校では掃除を行っているが、掃除方法が家庭生活とは異なる。また、家庭科の授業でも家庭での清掃方法を学ぶ単元があるが⁴⁾、小学校5・6年であるために、すでに掃除方法を家庭で学んでおり、学校教育で掃除の仕方を学んだと認識する児童は少ないと考えられる。

学年別に洗濯経験を考察すると、「ある」とするのは5年生では 57.4%に対して、6年生では 79.1%と2割以上多い。また、「ない」とするものは5年生では 40.4%であるが、6年生では 20.9%とその半数である(図 15)。6年生と5年生では大きな開きがあり、6年生の大部分は洗濯経験がある。

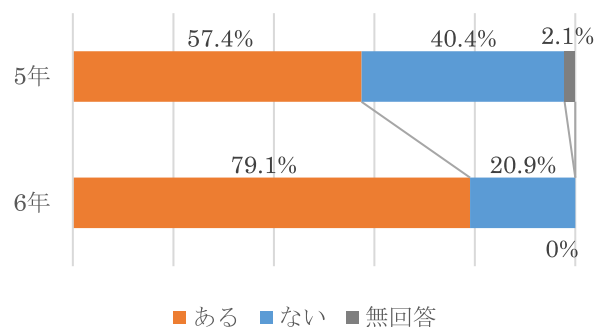


図 15 洗濯経験の有無(学年別)

5年生は家庭科で洗濯の単元を学んでいなかったが、6年生はすでに学んでいたことも要因の一つとも考えられる。

男女別に考察すると、「ある」とするのは、男子が 61.2%に対して女子は 80.5%あり、女子の方が約2割多い(図 16)。掃除では女子が1割程多かったが⁵⁾、洗濯は性別による違いが掃除よりややみられる。

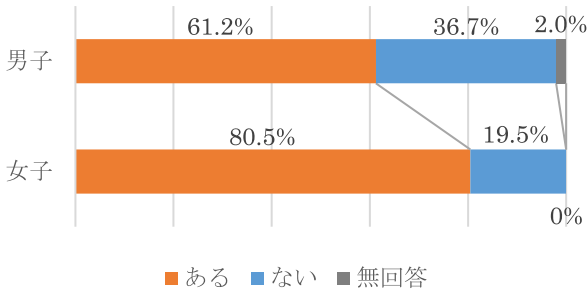


図 16 洗濯経験の有無(男女別)

2. 洗濯を初めて経験した年代

洗濯を経験した年代は、「小学3・4年」(46.0%)が最も多く、次が、「小学5・6年」(22.2%)と「小学1・2年」(20.6%)である。

いずれの年代も家庭教育との関わりが考えられるが、自分一人で洗濯することは困難であると考えられる、「小学校以前」に洗濯経験がある者も 11.1%みられる⁶⁾(図 17)。

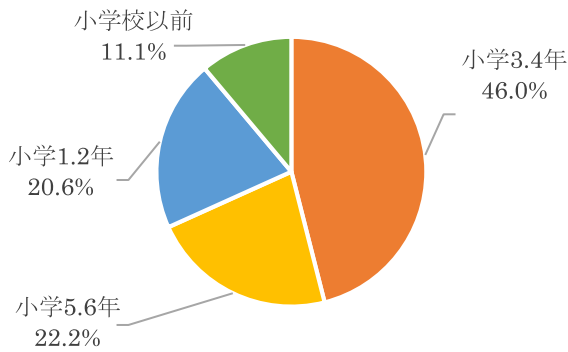


図 17 洗濯を初めて経験した年代

男女別に洗濯を初めて経験した年代を考察すると、「小学3・4年」が男女共に一番多い。しかし、次に多いのが女子では「小学1・2年」(27.3%)に対して、男子は「小学5・6年」(20.0%)である。

そのために、女子の方が男子より低学年で経験しているといえる(図 18)。

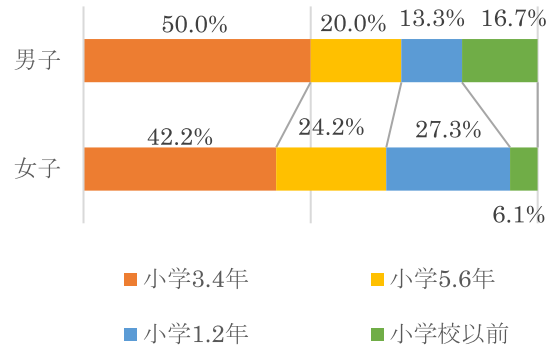


図 18 洗濯を経験した年代(男女別)

3. 洗濯物

洗濯した物を種類別に分析すると、「衣服」(23.7%)と「靴下」(23.2%)が最も多い。次いで、「靴」(20.0%)であり、「ハンカチ」(14.7%)と「下着」(14.7%)の順である(図 19)。

「靴下」や「靴」⁷⁾、「ハンカチ」は洗濯の必要性が高く、寸法的にも児童にとって手洗いしやすいので洗濯対象として上位にくるのは理解できる。しかし、「衣服」は手洗いするには大きく、扱いづらいにも関わらず最も多い。「衣服」は洗濯機を用いたとも考えられ、方法や要因の考察が必要であるが、衣服の中でも何を、どのような方法で洗濯したのかといった設問を設定していなかったために、今後の検討課題としていきたい。

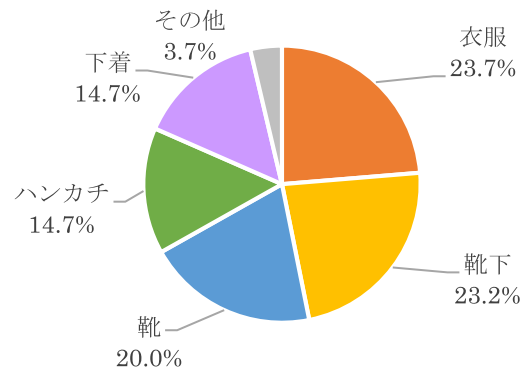


図 19 洗濯物

学年別に洗濯物を分析すると、5年生では「衣服」が 28.4%と最も多く、次いで、「靴下」(21.6%)、「靴」(18.9%)、「下着」(13.5%)、「ハンカチ」(12.2%)の順である。一方、6年生は最多が「靴下」(24.1%)であり、次いで、「靴」(20.7%)、「衣服」(20.7%)、「ハンカチ」(16.4%)、「下着」(15.5%)の順である(図 20)。

これらから、学年の下の5年生が大きさのある衣服の洗濯を

一番多く実行し、6年生は小物の靴下の洗濯が多いことになる。6年生では、家庭科の授業で靴下を手洗いと洗濯機洗いで比較する洗濯実習を行っていたこともあり、家庭での実践につながった可能性が考えられる。

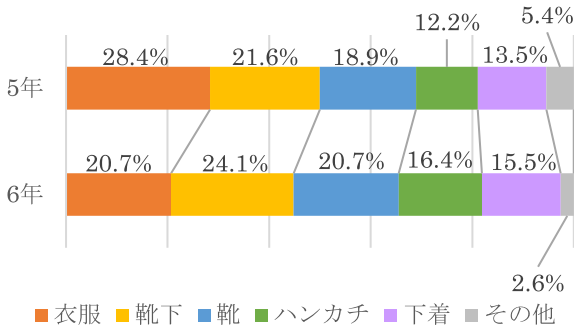


図20 洗濯物(学年別)

次に、男女別に洗濯物を分析すると、男子は「靴下」が26.7%で最も多く、次いで、「衣服」(24.4%)、「靴」(17.8%)、「下着」(14.4%)、「ハンカチ」(13.3%)の順である。一方、女子は「衣服」が23.8%で最も多く、次いで、「靴」(21.8%)、「靴下」(19.8%)、「ハンカチ」(15.8%)、「下着」(14.9%)の順である(図21)。

洗濯物は男女でやや異なり、「衣服」と「靴下」は男子の方が多く、「靴」や「ハンカチ」、「下着」は女子の方がやや多い。

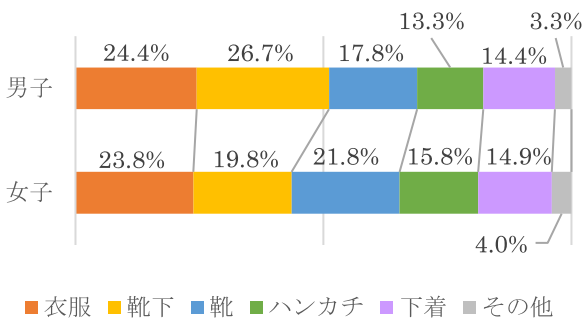


図21 洗濯物(男女別)

4. 自分の洗濯物の管理

自分の洗濯物を畳む、収納するといった、管理に関しては、「していない」は8.9%と少ないが、「時々している」(44.4%)と「している」(43.3%)は、ほぼ同じ割合であり、これら2つで大部分を占める(図22)。

その結果、自分の洗濯物の管理はほぼ行っているといえる。

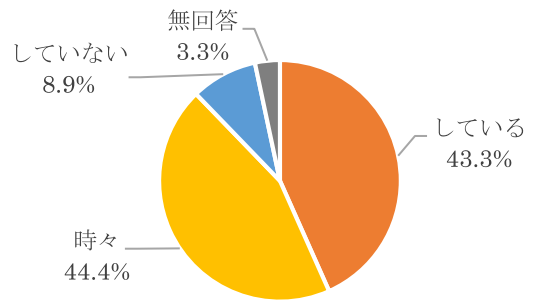


図22 自分の洗濯物の管理

学年別に洗濯物の管理実態を分析すると、5年生では、「している」のは31.9%しかなく、「時々している」(53.2%)が過半数を占めている。しかし、6年生は、「している」が55.8%あり、「時々している」(34.9%)を上まわっている(図23)。

そのために、6年生の方が5年生より比較的管理をしている。

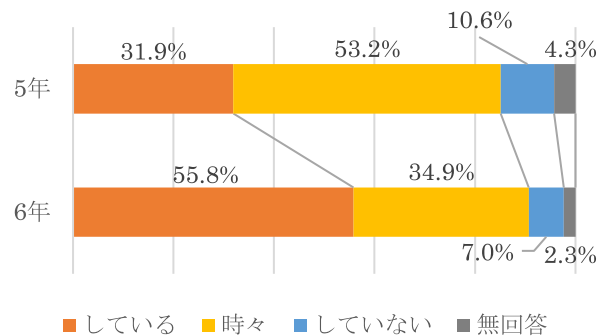


図23 自分の洗濯物の管理(学年別)

男女別に洗濯物の管理実態をみると、男子は「している」が36.7%しかなく、半数が「時々している」(46.9%)である。しかし、女子は「している」が56.1%あり、「時々している」(36.6%)より約2割多い(図24)。その結果、男女ではやや違いがあり、女子の方が自分の洗濯物は自分で畳み、収納している傾向にある。

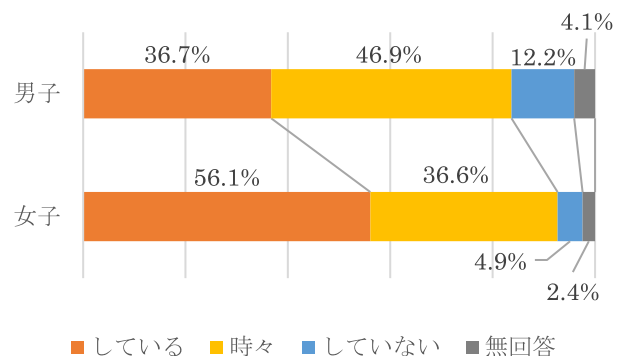


図24 自分の洗濯物の管理(男女別)

まとめ

1. 住まいの中でも学習している部屋の清掃に関しては、過半数が「清掃ができています」と回答し、「時々できています」を含めると9割が肯定している。
2. 児童の家庭での掃除状況は、「実行している」のが過半数を占め、「時々実行している」を入れると9割以上が実行している。掃除場所は、自分の部屋が最も多く、次に学習机の周囲であり、この2か所で過半数を占める。自分の場所以外では風呂が最も多い。

掃除に関する各項目を学年別に考察すると、5年生より6年生の方が実行している傾向にあり、男女別では女子の方が実行度が高い。

何れの学年も掃除の単元は家庭科ですでに学習しており、学年別の違いは学習成果の違いではない。一方、在学生の男女比率は、6年生は男子 22 名、女子 21 名と比較的バランスがとれているが、5年生は男子 30 名、女子 18 名と大きく異なる。5年生は女子が少ないために、実行度が低い可能性も考えられる。
3. 掃除の担当場所を児童に割り当てている家庭は少ない。担当がある場合は、本人が主に使う自室や学習机よりも家族が共通に使う場所に偏り、特に日々掃除が必要な風呂が半数である。掃除担当が開始されたのは、「小学3・4年」が最も多く、次いで、「小学1・2年」で、比較的低学年である。
4. 掃除方法を教えてもらった人は、母が約半数を占め最も多く、次いで、父、祖母であり、教師の順になる。教師は1割未満と比較的少ない。
5. 「小学5・6年」でも洗濯経験の無い児童が3割いる。初めて洗濯を経験した年代は、「小学3・4年」が最も多く、次に、「小学5・6年」と「小学1・2年」である。
6. 洗濯物を種類別に分析すると、衣服と靴下が最も多く、次いで、靴、ハンカチ、下着の順である。自分の洗濯物を畳む、収納するといった管理は、ほぼ実行している。

文献および註

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領解説 家庭編、pp.48-50、2008
- 2) 前掲1)、pp.44-48
- 3) 前掲1)、p.49
- 4) ①渡邊彩子監修：文部科学省検定済教科書 小学校家庭科用 新しい家庭 5・6、東京書籍株式会社、pp. 48-49、2016
② 内野紀子他：文部科学省検定済教科書 小学校家庭科用 わたしたちの家庭科 5・6、開隆堂出版株式会社、pp. 76-77、2016
- 5) 本稿 p.85
- 6) 筆者らの拙稿(千森督子、平林由利：『信愛紀要』第 57 号、pp.87-92、2017)では、すでに4歳児で洗濯やアイロンかけの手伝い経験のある幼児がいた。
- 7) 靴が多いのは、生活科で自分の上靴を洗うことを指導されたのが要因のひとつと推測される。生活科の教科書(寺尾慎一他：文部科学省検定済教科書 小学校 生活用 わくわく せいかつ上、p.71、p.109、株式会社 新興出版社啓林館、2016)にも掲載されている。

